

10/15(金)大学院企画セミナー開催

JCHO 大阪病院 西田 俊朗病院長を講師に招聘

【本件のポイント】

- 第一線で活躍する研究者を招いての特別講義
- ガンゲノム医療の最新情報を紹介
- 遺伝子情報に基づくがんの個別化治療の未来を解説

学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）は、10月15日（金）17：30～第2回大学院企画セミナーを実施いたします。これは、各分野の第一人者を招き、本学大学院生・教職員・学部学生、および学内外の関係者を対象に行う特別講義です。

今回は「がんゲノム医療の実装と臨床開発の現状」をテーマに、西田 俊朗氏（独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院長）が講師を務めます。2018年に全国11の病院ががんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がん領域での臨床応用が注目される中、がんゲノム医療の現状や今後の展開と課題について、第一線でご活躍される立場よりご講演いただきます。また、講師のプロフィール、講演の概要および聴講のお申込み方法については、次項をご覧ください。



日時	講師および講演内容	会場（予定）
10月15日（金） 17：30～	「がんゲノム医療の実装と臨床開発の現状」 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西田 俊朗 氏	関西医科大学 枚方学舎 医学部棟 1階 加多乃講堂 大阪府枚方市新町 2-5-1

※会場および講演内容は、一部変更になる場合があります。

※一般の方は、聴講に際して事前申し込みが必要です。（別添資料をご覧ください。）

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（畑森・両角）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

《講師プロフィール》

■西田 俊朗（にしだとしろう）氏

1981年に大阪大学医学部卒業後、関連病院にて医師のキャリアをスタート。1987年には同大学医学研究科博士課程を修了し博士号を取得。1990年に米国タフツ大学へ留学されました。帰国後は、大阪警察病院外科医長を務められ、1994年から大阪大学にて勤務し、2005年に同大学医学部附属病院教授へ就任。以後、大阪警察病院 外科系統括部長、副院長（2009年）、独立行政法人国立がん研究センター東病院病院長（2013年）、同センター中央病院病院長（2016年）などの要職を経て、2020年に現職に就任されました。また、国立がん研究センターの理事長特任補佐も務められています。日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科医学会、日本癌学会、日本癌治療学会などに所属されている他、がんとの共生のあり方に関する検討会、堺市がん対策推進委員会では座長も務めるなど各種学会や審議会等にて精力的に活動されています。



《講演要旨》

次世代シーケンサー（NGS）の発展で遺伝子解析が、迅速に、精度高く、低コストでできるようになり臨床各方面で汎用される時代になりました。今回の COVID-19 Pandemic でもウイルスの同定、診断、そして治療開発に遺伝子解析は欠かせない手段となっています。がんの領域でも、10年前から NGS を臨床応用しようという試みが始まり、分子標的治療や免疫治療の発展とともに、ゲノム解析が、がんの診断や治療に本格的に入ってきました。そして、この流れを受け、2018年に11のがんゲノム医療中核拠点病院が指定され、がんゲノム情報管理センターが国立がん研究センターの中に設置されました。また、同年12月末にがん遺伝子パネル検査が薬事承認され、2019年5月には二つのがんゲノムプロファイル検査が保険適応となり、2021年には Liquid Biopsy^{※1}も保険適応となりました。本講義では、がんゲノム医療の概要と現状、そして今後の展開と課題について考えていきます。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（畑森・両角）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

《聴講お申込み（一般の方）》

下記必要事項を記入し、メール（gradumed@hirakata.kmu.ac.jp）にてお申込みください。

◎必要事項

1. ご芳名
2. E-MAIL アドレス
3. ご所属
4. 連絡先の住所・電話・ファクス番号

《聴講（取材）お申込み（メディア関係者の方）》

下記「広報戦略室（kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp、072-804-2126）」まで、

- ・媒体名
- ・ご芳名
- ・ご連絡先（TEL、FAX、E-MAIL）
- ・取材予定人数

をご連絡ください。

※なお、本学に駐車場のご用意はございません。恐れ入りますが近隣の駐車場をご利用ください。

用語解説

※1 「Liquid Biopsy」

Liquid Biopsy（リキッドバイオプシー）とは、身体への負担が少ない低侵襲性の液性検体（血漿や尿など）を利用して主にがん診断を行う技術です。Liquid（リキッド）は液体、Biopsy（バイオプシー）は生検を意味します。

従来のバイオプシー技術は、内視鏡や針で生検を採取するため、苦痛とリスクを伴う上に腫瘍組織のごく一部しか採取できず、断片的なプロファイル情報しか検出できませんでした。リキッドバイオプシーで用いる液性検体には腫瘍を含むさまざまな組織、細胞からの情報が含まれているため、患者への負担を最小限に抑えながら全身の腫瘍プロファイルを網羅的に俯瞰することができます。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（畑森・両角）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp